

氏名	辻本 健	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	小児看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教				
所属学会（役職）	日本小児がん看護学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護科学学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	労働者が職場において疎外感や差別を感じる要因に関する実態調査－教育機関における労働環境改善の視点から－	共著	あり	労働安全衛生研究, 16 (2) , 181-189.	保科寧子,鈴木幸子,渋谷えり子,内山真理,須永康代,辻本健,森元二,高木薫	2023.9
2	小児医療施設の看護過程にセルフケア理論を取り入れた教育介入の質的な効果検証	共著	あり	日本小児看護学会誌, 32,150-158.	望月浩江,添田啓子,田村佳士枝,櫻井育穂,辻本健,瀧田浩平,平田美佳,近藤美和子,中田尚子	2023.12
3	入院中の「子どものセルフケアを補完する親のケア能力を測定する尺度」の開発	共著	あり	日本小児看護学会誌,32,177-184.	長谷美智子,櫻井育穂,辻本健,瀧田浩平,添田啓子	2023.12
4	維持療法の期間における急性リンパ性白血病の患児の療養生活に関わる親の体験	単著	あり	自治医科大学大学院看護学研究科博士論文	辻本健	2024.3
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	Resilience Experiences of PTSD High-Risk Group Parents of Childhood Cancer Patients After Discharge from Hospital	共同	2024EAFONS(香港)		○辻本健、横山由美	2024.3
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業若手研究	退院後の小児がん患児をもつ両親のレジリエンスの概念構築		研究代表者	2019.4～2025.3	
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究（C）	AYA世代の小児期発症慢性疾患患者の包括的看護支援ガイドラインの開発		研究分担者	2022.4～2026.3	
3	日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究（C）	退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のためのケアモデルの開発		研究代表者	2023.4～2026.3	

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅰ		7	講義担当補助として参加した。オンライン授業に伴う準備・設定、レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。
2	小児看護学Ⅱ	○	8	科目責任者として、シラバスの作成を行い、科目の構成および内容について企画した。本科目はオムニバスで行っているため、教員の専門性を配慮して配置し、各担当教員と打ち合わせを行い組み立てていった。また、ループリック評価表での評価が必要と考え、グループワークやレポート評価にループリック評価表を作成した。講義としては、血液腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護を担当した。主な血液腫瘍疾患の症状、観察ポイント、治療方法、子どもと家族への看護の必要性や方法を理解できるよう動画や紙芝居、絵本を用いてイメージできるよう対面での講義を行った。さらに授業内でグループワークを取り入れることで多角的視点での看護が検討できるよう授業を行った。
3	子どもの保健		9	講義2コマ担当、演習2コマは主担当した。良くみられる子どもの症状への理解と対応、病気をもつ子どもと家族に関する講義を行った。看護学科の学生ではないため、動画や絵本を用いて学生がイメージしやすいように工夫した。また、演習2コマの「バイタル測定」「内服支援」においては主担当を行った。演習内容の企画、演習物品の準備、整備、演習室の設営を行い、学生が子どもに興味を持ちバイタル測定できるよう、子どもの特徴を伝えるなどの工夫をした。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅲ		15	3グループ(学生25名)を担当し、グループ討議、学習を通し、学生がネフローゼ症候群・口唇口蓋裂を発症した子どもと家族の看護の必要性・方向性をグループ討議の中から見出せるように支援を行った。
2	小児看護学Ⅳ		15	「輸液管理」「清潔ケア」において演習の主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行った。学生が事例の子どもと家族への小児看護技術を主体的に習得できるように支援した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学実習		2023.8.15～8.24 .9.12～12.21 (2単位90時間 ×4クール)	学生26名を担当し、コロナ感染症の影響により3年振りの臨床の場における実習指導をし、子どもの安全を守り、個々の学生に合わせた実習指導を臨床指導者と連携を図りながら行った。
2	総合実習		2023.7.11～7.28 (3単位180時間)	学生4名を担当し、実習前の事前ゼミにおいて、学生個々が探求したい課題を明確にし、総合実習計画書を作成できるよう指導した。3年振りの臨床の場での実習指導をした。病棟の状況によって学生の課題に沿った受け持ち患児が持てない中、個々の学生が課題とする看護が実施できるよう、また、看護の効果を確認できるように臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。

3	IPW実習	2023.10.3~10.6 (1単位45時間)	学生6名を担当し、円滑に実習が進むように実習施設のファシリテーターと事前に、また実習を進めながら調整を行った。学生達のグループワークにおいて、進み方に合わせて、ファシリテートしたり、指導したりし、発表に至るまでを支援した。		
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	2023.4~2024.1	主指導	2名	副指導 名
(5) その他					
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月	
1	性・エイズ講演会	群馬県	「性の健康 性感染症予防と避妊」	2023.10.	
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期		
1	該当なし				
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容	年月		
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容	期間	
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容	期間		
1	全学的委員会及びセンター業務等	ダイバーシティ委員会(委員会活動の広報)	2020.4~2024.3		
2	学科等における委員会等	看護学科 総合実習	2020.4~2024.3		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)					
	受賞名	主催	受賞年月		
1	該当なし				
7. 特許の取得					
	特許名	特許番号	登録年月		
1	該当なし				
8. 特記事項					
1	該当なし				